

子どもたちのすこやかな成長のために

こんな様子や行動が日常的によくみられますか？

話しかけても目線が合わない



思い通りにならないとすぐ手をだしてしまう



順番を待つことが出来ない



注意がそれやすく、じっとしていることが苦手



その他にも…

- 何度注意しても同じ失敗を繰り返してしまう
- みんなと一緒に遊べない、遊ばない
- ちょっとした音に過敏に反応してしまう
- 身振り手振りを理解することが困難
- 自分の思い通りにならないとパニックになってしまう

…これらはもしかしたら、「発達障がい」という特性が関連しているかもしれません。

気になることがあったら、早めに相談を

名称	連絡先	受付時間
秋田市子ども健康課 母子保健担当 (主に就学前の乳幼児)	☎883-1174	8:30～17:15 (土日祝日、12/29～1/3休み)
子ども発達支援センター・オリブ園 ことばの遅れや発達の相談	☎828-7750	9:00～16:30
秋田県発達障害者支援センター ふきのとう 秋田	☎826-8030	9:00～17:00 (土日祝日、12/29～1/3休み)

子どもたちはみんな

こんなふうにしてもらえるとうれしいよ♪(子どもが伸びる対応)

★ほめるときはしっかりほめてあげましょう

ぎゅっと抱きしめてあげたり、頭をなでてあげたり、目線を合わせてハイタッチしてほめましょう。できそうなことからチャレンジさせて、うまくできなくてもがっかりせずに、その分ひとつでもうまくできた時は、一緒に思いきり喜んでほめてあげましょう。

ほめてあげること、成功体験をつむことで子どもたちは「自分にはうまくできることがあるんだ!」と喜びを感じ、自信を身につけることができます。



★あせらずに落ち着いて笑顔で対応しましょう



困った行動や風変わりな行動は、周りを困らせようと「わざと」しているわけではありません。周囲が「困っている」という認識ができていないことが多いようです。

感情的にならずに、子どもの言葉に耳を傾けて、落ち着いて対応しましょう。声をかけるときは子どもに「近づいて」、「穏やかに」、「静かに」が原則です。怒鳴ったり、遠くから大声で話したりでは、指示そのものが入りにくいと考えてください。手を伸ばしたら肩に手がかかるくらいの距離で声をかけることがポイントです。

★「子どもが安心できる」対応をこころがけましょう

子どもにとってのわかりやすさを最優先して接しましょう。子どもは「理解出来る」「実行できる」「自分のことをわかってもらっている」と感じる事ができれば、強い安心感を抱くことができます。

★指示を出すときは「具体的に、簡潔に、見てわかるように」

必要なことだけを、迷う余地のないようにはっきり伝えます。

「なるべく」「ちゃんと」など曖昧な形容詞や副詞は混乱のもとになります。

また「ダメ」「やめて」などの言い回しより、「○○してくれたらうれしいな」などの希望系の言い回しのほうが、子どもが「望ましい行動」を起こすための効果が大きくなります。



例) 「積み木をちゃんと片付けて!」→「積み木を黄色い箱に片付けてくれたらうれしいな。」

■参考文献 「アスペルガー症候群・高機能自閉症の子どもを育てる本」
「幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応」

佐々木 正美 監修
平 岩 幹 男 著

■協力 秋田市医師会 小 泉 ひろみ